



# いわての林業人36

はじめに

今月の普及班便りでは、平成25年度岩手県地域林業促進活動褒賞事業で表彰された5名の方々を二回にわたってご紹介します。今回、一回目は、3名の方をご紹介します。



表彰式の様子

マッシュユエクスパートクラブ

会長 高橋 繁晴さん(八幡平市)

○原木しいたけ生産技術の向上と人材育成に尽力

氏は、平成10年度に、盛岡地方しいたけ生産振興協議会に加入している会員の後継者と若手の会員とともに

に、原木しいたけの生産技術の向上を図るため、勉強会や視察研修会を行うことを目的に、「マッシュユエクスパートクラブ」を設立しました。

活動の内容は、スパーなどでの試食販売会の開催で、原木しいたけの宣伝活動を行うとともに、消費者ニーズの把握に努めています。

○原木しいたけの販売促進に貢献

大手スーパーでの販売は、平成15年に当クラブが3店舗で実施した試食販売会が縁で可能となったものであり、平成25年3月では20店舗まで増えてきています。

また、平成23年3月に起きた原発事故による放射性物質に係る風評被害対策の際は、学識経験者を招いて勉強会を開き、知識を生かした生産や販売を実施するなど、原木しいたけの販売促進に貢献しています。

なお、平成25年4月の出荷規制解除に伴い、盛岡市の生産者が実施した販売促進イベントを積極的に支援しています。

菊池 司さん(奥州市)

○生産技術地域リーダーとして活躍

氏は、旧江刺市森林組合職員、森産業株式会社職員として、長年、原木しいたけ栽培の指導にあたってきています。

平成4年度からは、しいたけ生産者であった父の跡を継ぎ、30年以上にわたって県南地域で自らもしいたけ栽培を行いながら、県の認定する「岩手県しいたけ生産技術指導地域リーダー」として、また、平成17年度からは、奥州市椎茸生産協議会の事務局長として地域の先導的な指導者として活躍しています。

○地域の原木乾しいたけ栽培を牽引  
岩手県しいたけ生産技術指導地域リーダーとして、栽培技術を地域の生産者に普及しています。

特に、ホダ化の促進技術や被覆資材を活用した管理技術が優れており、この技術を、地域の生産者や新規参入者に広く指導し、収量安定や地域の産地化に寄与するなど、しいたけ産業の振興に大きく貢献しています。

野崎 泰司さん(宮古市)

○意欲的な森林経営に尽力

氏は、県内で初めて団地造林を導入するなど、人工造林に積極的に取り組む、自己所有林の5割に相当する130畝の人工林を造成しています。その取り組みは、列状間伐やヒノキ林の造成、所有林の一部では、針葉樹や広葉樹の混合林化を図るなど、林業技術の向上に努めています。

また、平成24年度には、宮古地域初となる森林経営計画を作成し、国の支援制度を活用した搬出間伐にも積極的に取り組むこととしており、地域の模範となっているだけでなく、地域のリーダーとして貢献しています。

○高品質な椎茸生産、再生に尽力

氏は、寒冷な気候と春先の乾燥など、厳しい気候条件にもかかわらず、年間800kgの乾しいたけを生産しています。平成8年度には、全国椎茸品評会において、農林水産大臣賞を受賞するなど全国的にも高い評価を得ています。

平成23年3月11日に発生した大震災津波により、人工ホダ場や多くのホダ木、さらには自宅や栽培資材までも流出するなど大きな被害を受けました。しかし、後継者である御子息とともに、しいたけ生産基盤の再整備に努め、地域の生産者の先頭に立ち、しいたけ産業の再生に取り組んでいます。

おわりに

受賞された方々におかれましては、おめでとうございます。

林業技術センター普及班

019(698)1337